

ふれあい通信

平成28年1月号【第248号】

「ふれあい通信」は、
坂下病院ホームページでもご覧いただけます。
■ホームページアドレス <http://sakashita-hp.jp/>
■電話 0573-75-3118 ・ FAX 0573-75-2590

■編集・発行：国保坂下病院広報委員会



院長 酒井 雄三

謹んで初春のご挨拶を申し上げます。

皆様新年明けましておめでとうございます。

昨年はパリでの同時多発テロ事件など世界的にテロの多かった1年でした。またTPP交渉が妥結し医療関連につきまして変化があるのかもしれませんが、皆様にはお元気で新年をお迎えのことと心から御慶び申し上げます。

私は昨年（平成27年）4月1日に、高山先生（現名誉院長）の後を受けまして坂下病院長となりました。また高山先生の恵那医師会理事の後任として、昨年6月の恵那医師会総会での承認後に恵那医師会の理事とさせていただきました。

さて病院長になりましたが、やはり喫緊の課題は何といても医師の確保です。先般愛知医大の消化器内科など多くの医局を訪問し、医師の派遣などをお願いしましたが、どの医局も医師の数は多くはなく、難しい状況を実感しました。平成29年度には国の認定する新しい専門医制度も始まりますが、少子高齢化で人口減少となる地域の医師確保はますます困難になっていくようです。

また、診療報酬の改定もありますが減点となることは確かなようで、病院の運営（経営）についても大変苦しい状況です。病床についても東濃圏域地域医療構想を踏まえての病床の再編が目前となっており、当院も地域ケア病棟の導入を急がなければなりません。

しかし当院は木曽南部の急性期医療も担っており、急性期医療は維持しなければなりません。

私どもは「地域に信頼され、優しく、温もりのある地域包括ケアを実践する」の理念のに基づき、すべての皆様に対しまして身体的な病気を診るのみではなく、一人一人の生活全体を踏まえた全人的医療・介護・福祉包括ケアを目指します。

今後とも引き続き皆様方の御理解・御支援を賜りますようお願い申し上げ、最後に今年1年の皆様方のご健康を祈念し新年のご挨拶とさせていただきます。



◆坂下病院の理念

地域に信頼され、優しく、温もりのある地域包括ケアを実践します。

▶基本方針

1. 私たちは、日々研鑽に励み、患者様ひとり一人と心のふれあう最善の医療を提供します。
2. 私たちは、利用される方々にとり、快適な療養環境と、安全で信頼されるケアの提供に努めます。
3. 私たちは、地域の人々が質の高い生活が送れるよう、疾病予防と健康増進に努めます。

新連載 健康 ふれあい掲示板

今年もインフルエンザ
にご用心



内科 高塚直能

新年明けましておめでとうございます。年が明け、いよいよ寒さも本格的になってきました。例年この季節になると、外来にはインフルエンザに罹られた患者さんがぽつぽつ受診されますが、岐阜県リアルタイム感染症サーベイランスホームページによると平成27年12月6日時点ではまだこの地域での発生報告はないようです。とはいえ、油断は禁物です。というのも、季節性インフルエンザの流行は例年12月半ばに始まり、年明けから2月初旬にかけて本格化するからです。インフルエンザはインフルエンザウイルスが主に気道の粘膜に付着することで感染します。感染発症した方がくしゃみや咳をすると、ウイルスを含んだしぶき（飛沫）が空气中に飛び散ります。この飛沫を吸い込んだり、飛沫が付いた手などで粘膜を触れたりすることで周囲の人にも感染が広がっていきます。これからの季節、湿度の低下や紫外線量の減少に加え、年末年始の帰省等で人の移動が増えてくると感染が拡大するといわれています。

インフルエンザの感染を予防していくためには、まず、流行時には人の多いところへの不要不急な外出を控えること、そして積極的な手洗いです。インフルエンザウイルスはアルコールに弱いため、アルコール製手指消毒薬をしっかりとすり合わせるとよいでしょう。アルコールと聞いて、お酒でうがい！と期待された方もみえるかもしれませんが、日本酒程度のアルコール濃度では効きませんし、気道にお酒を入れるわけにもいきません、むしろ粘膜を痛めるので、変な正当化はせず、お酒はほどほどで楽しみましょう。

また咳やくしゃみが出始めるようなら、マスクの着用を。くしゃみを手で押さえた場合はもちろん手洗いを。そして、インフルエンザの予防接種です。発症や重症化を減らすことについては有効性が示されています。

もちろん、効果は100%ではありませんし、副作用もあり得ます。期待できる効果と負担を考えていただいた上で、接種を希望される方は流行前の接種を。

ポイントですよ

病院めぐり 外来



坂下病院は、新築移転して14年が経過しました。

外来診療科のうち、内科・外科・整形外科・眼科・小児科は、毎日診察があります。

耳鼻科は週4日、泌尿器科は週3日、皮膚科と脳神経外科は週1日、神経内科は月に4日、腎臓内科は月に4~5日（各週の水曜・第1、3、5の金曜）。婦人科は月に6~7日（第1、3の木曜と毎週金曜）の診療体制となっています。

各々予約制となっていますが、当日受付も可能です。体調不良が続き負担を感じる方などは、検査などが比較的スムーズに行えるため午前中に受診されることをお勧めします。

ただし、受診する科や病状などによっては日にちを改めていただく事がありますし、救急車による搬送であっても、病状などによってはお待ちいただく場合がございます。

受付時間は原則8:30から11:30ですが、眼科は月・水曜日は手術のため11:00まで。整形外科は金曜日の11:00までとなっていますのでよろしく願いいたします。

現在、多くの医療機関で医師・看護師不足が深刻化し、当たり前にあった診療科も人員不足のため縮小を余儀なくされるなど、医療制度を取り巻く環境も徐々に厳しくなっていますが、坂下病院も例外ではなく少ない医師・看護師・スタッフで毎日頑張っております。

坂下病院周辺の地域（南木曾、大桑、中津川市）では高齢化も進み、老々介護、認認介護などの言葉も聞かれ、家族内における介護負担が大きくなってきています。

国は今後も在宅医療を推進していく方向であり、私たちはこれからどのように生き、在宅介護を行うにはどのような方法が良いのか、地域の方々と一緒になって考え、歩んでいかなければならないと考えています。病気になるれば病院へ行き、元気になれば自宅に戻るといった偏りのない両輪で進んでいきたいと思っておりますので、困ったことがあればぜひ相談ください。

坂下病院は地域の皆さんに支えられ、私たちスタッフも地域の方々の支えとなるよう努力していきます。



防災訓練を実施しました。

平成 27 年 11 月 8 日（日）に坂下病院の職員を対象とした防災訓練を実施しました。当院では毎年、いざという時に備え、防災訓練を実施しております。今回は午前 9 時に東海地震が発生し、当地域で震度 6 弱を観測。院外では多数の被害が発生しているという想定で訓練を開始し、自主参集後、救急診療体制の確立までを目的に訓練を行いました。



当地域は『東海地震に係る地震防災対策強化地域』及び『東南海・南海地震防災対策推進地域』に指定されるとともに、多くの活断層を有するなど、いつ大規模災害が起きても不思議ではない地域です。当院は地域の中核病院として災害時に果たすべき役割は大きいと考えております。有事の際に患者さんや地域のみなさんのお役に立つことが出来るよう、今後もこのような訓練を重ね、いざという時に備えていきたいと考えております。

訓練に際し、患者さんやお見舞いの方々にご協力いただき、ありがとうございました。

感染対策週間ポスター展を開催しました。

皆さん、11/5～20 まで正面玄関に展示してありました、子供たちが描いたポスターの数々をご覧くださいましたか？当院では、毎年 11/12～18 を感染対策週間として、職員の感染に対する意識を高めると共に、地域の方々への啓蒙活動を行っておりますが、このポスター展は「うがい・手洗い」の大切さを伝えるために職員の子供たちが描いた啓発ポスターを展示したものです。



最優秀・優秀賞受賞の皆さん

感染対策活動の一環として行うようになり今回で 4 回目の開催となりますが、この時期を感染対策週間とする理由は、風邪やインフルエンザなどが流行し始める時期でもあり、またちょっと苦しいですが 11/12 を「(手洗いで)いい手に」の語呂合わせとしているからです。

展示期間中、職員の投票で選ばれた優秀作品は、その後一週間ほど展示されます。毎年、ポスターを描いて下さる子供たちも、今年はどんなポスターにしようかいろいろ考える中、自然に「うがい・手洗い」の大切さを学び、自分の描いてきたポスターの変化（成長）に気づくのではないのでしょうか？次回はどんなポスターが展示されるか今から楽しみに待っていて下さい。



岐阜県国保学会の報告です。

今回で 20 回目の開催を迎える今学会は、メインテーマに「これからの地域包括医療・ケアの進むべき真の道」を掲げ、中津川市国保蛭川診療所長の浦田英男先生を学会長として、平成 27 年 11 月 15 日（日）に岐阜市のふれあい福寿会館において開催されました。

当院からは病院長、名誉院長をはじめとする 44 名が参加し、高山哲夫名誉院長には、長きに亘り岐阜県国民健康保険診療施設協議会の会長を務められた功績を称え、開会式において感謝状が贈られました。

また、研究発表部門では 42 題の発表が行われ、当院からは徳田看護師長、垂見保健師、佐藤放射線技師、林訪問看護ステーションほほえみ管理者、堀理学療法士、青山臨床工学技士が各々の日頃の業務に関する研究成果を報告しましたが、発表者の中から選ばれる最優秀賞(1名)、優秀賞(3名)において、当院青山忠弘臨床工学技士の「医療機器研修会の改善～安全意識の向上を目指して～」が優秀賞を頂く栄誉に輝きました。



研究発表の様子



特別講演の様子

日程の後半では、高山哲夫名誉院長が特別講演を行うとともに、「温故知診～地域で支える地域包括医療・ケア～」と題したシンポジウムなども行われ、当市健康福祉部健康医療課の安江佐智子課長補佐が「みんなで支えあい、健やかで安心して暮らせるまちづくりをめざして」をテーマに健康づくりの発言を行うなど、盛況のうちに閉会となりました。



終活のススメ

病棟より



新年を迎え、今年一年をどのように過ごしたいか皆さんお考えではないでしょうか。そんな中で人生の最期をどのように迎えたいのかを考えたことはありませんか。年の初めに縁起でもないと思う方がいるかもしれませんが、この世に生を受けた以上、誰にでも必ず終焉の刻は訪れます。「最期」を考えることは、いかに生きるべきかという「生」への思索につながるものではないでしょうか。

患者さんの中には急に容態が悪くなり、そのご家族は延命処置をどうするかという選択を余儀なくされることがあります。また、長期間食事を摂ることができなくなった際など、同様に今後のことを考え、ご判断いただかなければならない場合もあります。点滴や胃瘻から栄養補給する、あるいはそのまま自然に任せるなどが考えられますが、患者さんご本人は衰弱していたりして自己決定できない場合がほとんどで、やはりご家族が選択していかねばなりません。

最近「終活」という言葉をよく耳にします。「終活」とは人生の終わりをより良いものとするために事前に準備をすることで、今をより良く自分らしく生きるための活動です。自分の希望に沿った最期を迎えるために、そしていざという時にご家族も困らないために、どのような最期を迎えたいのかを事前に話し合わせておくことをお勧めします。

また、「エンディングノート」というものも市販されています。自分にもしものことがあった時のために、伝えておきたいことをまとめておくノートです。人生の最終章を迎えるにあたり自分の思いや希望をご家族に確実に伝えることができます。医療・介護（告知・延命処置）について、資産、親族や友人などの情報、葬儀やお墓についての希望、大切な人へのメッセージなどを記入できるようになっています。

「終活」の第一歩として活用してみたいはいかがでしょうか。限りある人生をいかに充実した時間にするのか、どのように最期を迎えたいのか、皆さんも一度考えてみてはいかがでしょう。

【最優秀賞】



感染対策ポスター展
受賞作品紹介

【優秀賞】



これからも、
うがい、手洗いしっかりね

【優秀賞】



■お知らせ

★職員募集！《看護師・准看護師・介護福祉士》

坂下病院で勤務していただける方を募集しています。

◆ 看護の力が、皆さまの支えとなる地域を目指して。

➢ 60歳未満の方、性別は問いません。

勤務時間などはご相談に応じます。



【連絡先】

0573-75-3118 (内線210)

看護部長室 松本・吉村

※坂下老人保健施設でも、看護師、准看護師、介護職員の募集を行っています。

◆MRI 装置入替工事の実施について

このたび当院では、更なる検査精度の向上と患者さまに安心して検査をお受けいただくことができるよう、MRI 装置更新のための入替工事を以下の日程で実施することといたしました。

これにより、下記の期間は MRI 装置を使用する検査を休止するものとさせていただきます。

また、工事期間中作業内容によっては院内でも騒音・振動が発生する場合がありますので、皆さまには大変なご不便とご迷惑をお掛けいたしますが、何卒ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

■工事による検査休止期間 … 平成28年1月5日(火) ~ 2月14日(日)

◆数字で見る病院の動き

■平成27年10月1日 ~ 平成27年11月30日 ※ () 内の数値は、対前2ヶ月比 (8・9月分との対比)

◆外来患者数 …… 18,439 名 (+11)	◆時間外患者数 …… 452 名 (-88)	◆透析患者数 …… 1,292 名 (+60)
◆入院患者数 …… 8,551 名 (+537)	◆救急搬送患者数 …… 99 名 (+14)	◆健診者数 …… 513 名
◆手術件数 …… 116 件 (+10)	◆リハビリ件数 …… 4,160 件 (-44)	

